



1. 第2回企画展『宮島展』開催

● 広島大学総合博物館 第2回企画展 『世界遺産 宮島の魅力一発進!! 広島の宮島学一』 (2008年7月)

【期 間】2008年7月18日(金)~8月7日(木)
 【会 場】広島大学東広島キャンパス 学生会館2階レセプションホール
 【主 催】広島大学総合博物館
 【後 援】廿日市市教育委員会、中電技術コンサルタント株式会社
 【協 力】文学研究科附属内海文化研究施設、理学研究科附属宮島自然植物実験所、厳島神社、大願寺、廿日市市立宮島歴史民俗資料館、島根県立三瓶自然館サヒメル

【入場者数 1,175人】

- ・広島大学による研究成果を、自然・人文両分野を総合的に展示することで、これまでにない宮島像の表現を試みた。
- ・展示内容は、文学研究科附属内海文化研究施設や理学研究科附属宮島自然植物実験所などの、宮島研究に関わる施設や、学内外の教員と連携して作成。
- ・研究成果の紹介に加え、異分野間での情報交換のきっかけとなった。
- ・専門性の強い展示であったため、一部の熱心な来場者には好評を得たが、入場者数は伸びず、来場者の立場に立った、会期・会場の設定、広報の方法など、次回への課題を残した。

本邦初公開・大願寺蔵厳島絵図

- ・教員のネットワークにより、秘蔵の絵図の存在が判明、写真撮影と実物大パネルの制作・公開の許可を得る。
- ・廿日市市教育委員会の協力により、写真撮影に必要な場所を確保。
- ・撮影場所の宮島小学校では、子供達が作業を見学。地元の貴重な文化に触れる機会となった。
- ・[2.モバイルミュージアムの実施]へと繋がる。



大願寺絵図をのぞき込む子供達



教員による講演会の様子



展示場の割製展示コーナー



キャンパス内のレストラン「ラホエーム」の期間限定「宮島展」メニュー



2. モバイルミュージアムの実施 (2008年11月)



小学校の体育館にて出張講演会

資料に見入る小学生達

絵図のレプリカを前に熱心な質問が飛び交うチャラリトーク

宮島で『宮島展』一研究と地域を結ぶ一

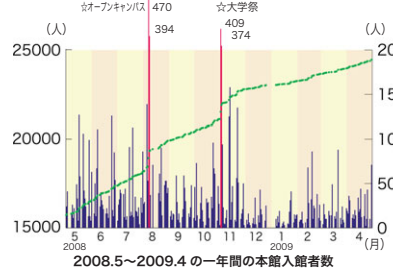
【日 時】2009年11月5日(水)
 【会 場】廿日市市立宮島小学校 体育館
 【主 催】広島大学総合博物館
 【協 力】廿日市市立宮島小学校

【入場者数 158人】

- ・小学校の文化祭で実施。小学校から島内全戸に広報される。
- ・企画展のパネルと大願寺絵図(実物大パネル)を再展示。
- ・公開講演会には多くの住民が参加、関心の高さが伺えた。
- ・研究成果の地域への還元に加え、研究に対する理解も得られた。

3. 開館23ヶ月目で入館二万人達成!!

2009年4月までの30ヶ月間で、約24,500人



2008.5~2009.4の一年間の本館入館者数
 折れ線グラフは累積入館者数 (単位は左縦軸)
 棒グラフは、日あたりの入館者数 (単位は右縦軸)

- ・2008年9月前半に二万人達成。
- ・大学祭やオープンキャンパスで多数来館。



2万人目の入館者となったのは、広島大学附属福山高等学校PTAを引率してきた竹盛浩二先生でした。竹盛先生とPTAの皆さん。

4. 理学研究科サテライト館オープン (2008年11月)



1階ロビー展示スペース

資料室内部の展示

【開館日】月曜日~金曜日
 【開館時間】10:00 - 17:00

- ・総合博物館が推進する『キャンパスまるごと博物館構想』の一環、サテライト館企画の第四弾。
- ・部局と博物館でワーキングを立ち上げて実施。部局からは展示資料を提供。博物館は、費用を負担し効果的な展示方法をアドバイス。
- ・理学研究科の研究成果や標本資料を展示。
- ・資料室を併設。部局へ希望すれば、同研究科の前身校時代からの被曝資料や研究機材を見学できる。
- ・6月には、第五弾を中央図書館に開設予定。

5. 事務室・収蔵庫の整備 (2008年10月)

- ・館長室、教員室、ミーティングスペースを備えた事務室が設置。
- ・事務室に附属して、約100㎡の収蔵庫を整備。
- ・現在、化石をはじめとした学内の標本資料を整理、収蔵中。
- ・すでにスペースに余裕は無いため、今後は学内に存在する標本資料の全体量の把握が重要となる。



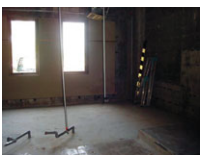
玄関の名残の残る博物館事務室入口



収蔵庫内の様子



公示前の玄関



エントランスに窓・壁を取付て部屋に

教育学部に2箇所あった玄関を統合。封鎖する玄関のエントランスを利用して博物館の事務室に改造。



ミーティングルーム、机上には化石標本整理中

TOPICS

ブログ好評連載中!

目標「毎日更新」、日々新しい情報を提供



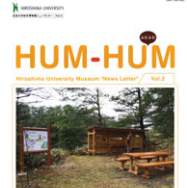
- ・多い日には1,000Hit以上、毎日平均500Hit。
- ・博物館の普段の活動やその舞台裏がわかると好評。
- ・博物館スタッフの間でも、相互理解を深めるコミュニケーションツールとして活躍。
- ・リアルタイムで写真を交えて書くことで、記録としての機能も兼ねる。
- ・一般のブログサイトを利用しているため、管理が簡単。



←左のQRコードからどうぞ!

ニュースレター『HUM-HUM』 Vol.2の発行 (2008年10月)

- ・博物館の一年の取組についての事業報告書として作成。
- ・写真を多く掲載し、博物館の活動の様子を見て知ってもらえるような構成になっている。
- ・タイトルの『HUM-HUM(フムフム)』は、Hiroshima University Museumの頭文字に由来。



ニュースレター表紙

今年度の企画展 『豊かな里海・瀬戸内海ものがたり』

【期 間】2009年7月18日(土)~8月30日(日) 【会 場】広島市こども文化科学館
 【主 催】広島大学総合博物館、(財)広島市文化財団 広島市こども文化科学館【共 催】海洋研究開発機構(JAMSTEC)
 【協 力】広島市立立和自然科学博物館、広島化石館、広島県立自然史博物館、環境科学株式会社
 【後 援】広島市教育委員会、広島県教育委員会、NHK、中国放送、テレビ新広島、広島テレビ、広島FM放送、中国新聞社

【内 容】「身近な海から世界の海へ」が全体のタイトルで、広島市こども文化科学館、海洋研究開発機構と共催で行い、メイン展示の瀬戸内海を広島大学総合博物館が担当する。

世界有数の内海で、私たちの生活に身近な「里海」である瀬戸内海がテーマ。古瀬戸内海と呼ばれる太古の時代から、現在に至るまでの、海洋生態系や人との関わり、そして未来に里海を残すための取組まで、広島大学の文理両分野の研究成果をもとに展示する予定。今回は、広島市の博物館と提携し、特に子ども達を主要なターゲットとするなど、新しい試みもある。